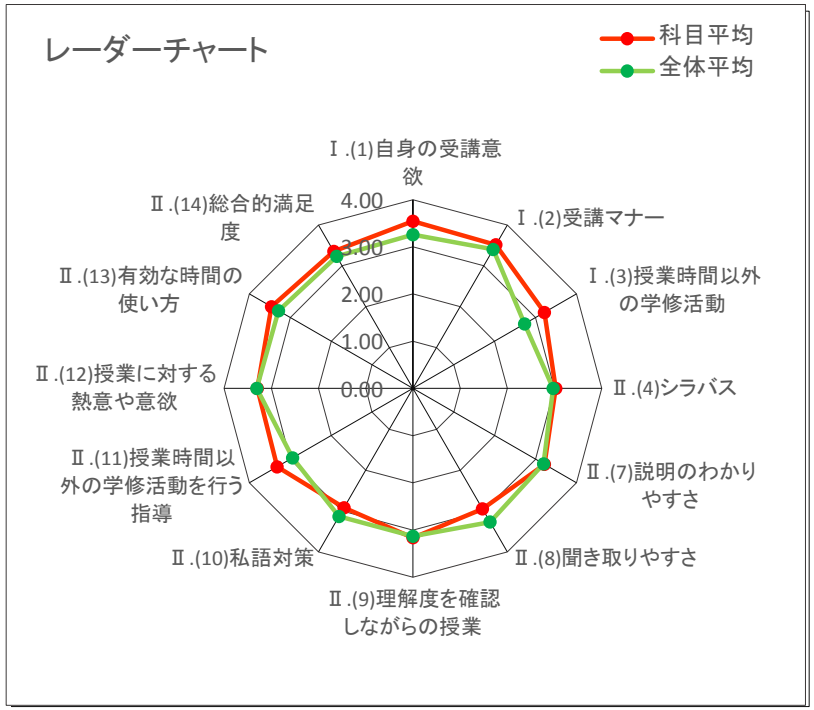
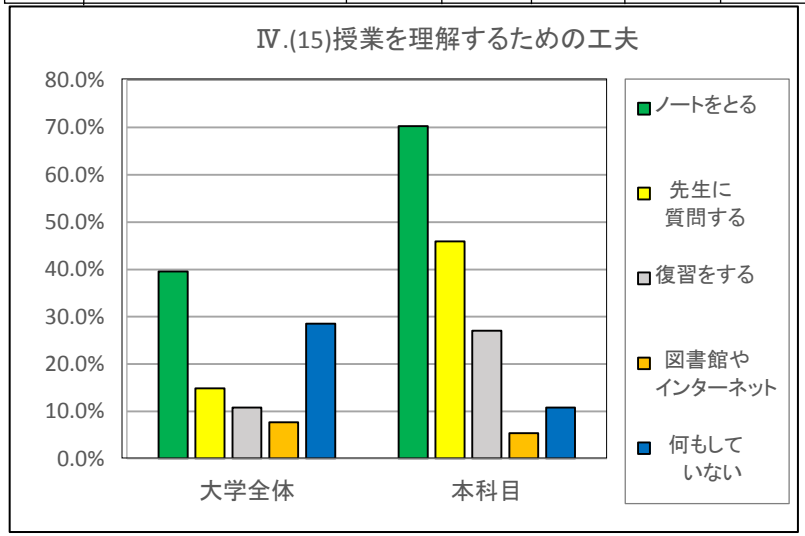
講義科目　授業アンケート結果



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	Ⅰ.(1)	3.54	3.26
	Ⅰ.(2)	3.51	3.40
	Ⅰ.(3)	3.22	2.73
講義内容・方法	Ⅱ.(4)	3.03	2.97
	Ⅱ.(5)		
	Ⅱ.(6)		
	Ⅱ.(7)	3.22	3.20
	Ⅱ.(8)	2.95	3.27
	Ⅱ.(9)	3.16	3.13
	Ⅱ.(10)	2.92	3.13
	Ⅱ.(11)	3.32	2.94
	Ⅱ.(12)	3.30	3.31
	Ⅱ.(13)	3.46	3.29
満足度	Ⅱ.(14)	3.35	3.23

※レーダーチャートの平均は4段階評価　4(そう思う)、3(ややそう思う)、2,（あまりそう思わない）、1（そう思わない）

〈※複数選択可項目〉		ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
Ⅳ.(15)	授業を理解するための工夫	70.3%	45.9%	27.0%	5.4%	10.8%



	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢 Ⅰ.(1)～(3)	3.42	3.13
講義内容・方法 Ⅱ.(4)～(13)	3.17	3.15
総合的満足度 Ⅲ.(14)	3.35	3.23

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2014年度　前期
時間割番号	21103
科目名	英会話Ⅰ
教員名	

①授業計画の達成度について

本授業は，実用的な英語表現・基礎英文法を中心にしながらも，自分の意思を正しく相手に伝える力の習得を目指している。講義要項で挙げられた英語表現を，親しい人から目上の人に対して使う表現として段階別に指導するようにし，自分の意思を的確に，かつ，場に適した表現の使用法を取り上げた。総合的な英語コミュニケーション能力の育成という点において，授業目的を達成できたと考える。Ⅱ.(5)難易度の高さの項目を見ると，少々難度が高いと感じた履修生もいたことから，授業回によって難度の差をつける必要があるだろう。

②授業の進め方について

毎授業にめあてを提示し，めあてを達成するために，dictationやlisteningをwarm upとして扱い，できるだけペアやグループでタスクを達成させる方法をとるようにした。自主的に取り組む受講生が多かった点もあり，講義形式で説明をしてからタスクをこなすよりも，タスクから授業目的をくみ取る方法が本クラスには適していたようである。

授業形態を演習形式に据えていたため，ノート作成を授業内に行う時間をあまりとれていなかった。しかしながら，Ⅳ.授業を理解するための工夫において，「ノートをとる」の数値が高いのは，復習等の自宅学習にも力を入れる受講生が多かったためだと考えられる。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

以前回収した授業改善シートによると，実践的な英語を実践的に学びたいとの声が比較的多かったため，手本を提示し，履修生が考えて，英語を話す形態を取った。今後は，受講生の活動に対するフィードバックをどれだけ丁寧に行うかがポイントとなる。

奈良学園大学